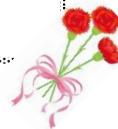




教育目標：優しさとかしこさをもたらたくましく生きる子

令和2年度の重点目標…「ありがとう。」

思い出に残る日々



3月第2週は、ずっと心に残る思い出活動を展開することができました。27人全員そろって活動できていることが本当に嬉しいです。

<サケの稚魚放流>

3月10日(水)、宮中ダム取水口でサケの稚魚の放流を行いました。JR東日本にお勤めの羽鳥 隆さん(新屋敷)のお取り計らいで中魚沼漁協様のご協力により実現したものです。今まで学校行事は晴れ続きだったのですが、閉校がいよいよ近づいてきたためか涙雨が少し降る中行いました。



全校で約2万匹の稚魚を放流させていただきました。4年後に戻ってくるのお話から、「帰ってきてね」と思いを入れて放したのですが、ふるさとの川に無事戻ってくるサケは0.5%程度と言われているそうで、2万匹だと、100匹ほどになります。それでも石の間に挟まったりせずちゃんと川の流れに乗ったか確かめながらバケツから放す子どもたちの姿がありました。



最後に感想発表の場を設けていただきました。JR、漁協、市建設課・広報広聴課、さらに多くの報道陣と、大勢の皆様が見つめる中発表した6名の子どもたちは立派でした。また、「一生の思い出になりました。」などの感想に対し、卒業生でもあり、民生委員としても教育活動に御協力いただいた羽鳥様は「泣けてくるよ。いい思い出にしてね。」とお話してくださいました。

「ふるさと」への思いを深め、宮中ダムの偉大さに「♪科学の力をさとののだ♪」の校歌の意味を再認識する日となりました。

<全校思い出バス遠足>

3月12日(金)、みんなで指折り数えて待っていたバス旅行に行ってきました。曇り空ではありましたが、高速道路から遠くの山を眺めたり、近づいてくる県庁の建物にわくわくしたりしながら現地に向かいました。

県庁では、2班に分かれ、テレメータ室(県内の大気状況管理室)、展望回廊、警察庁舎等の見学をじっくりと行いました。議会庁舎は議会中のため見学できませんでしたが、18階の展望回廊から議会についても説明していただきました。ガイドさんの説明に子どもたちはよく反応し、大変意欲的に学ぶ姿は立派でした。

そして、マリニピア日本海!到着後早めの昼食を団体用休憩室でとってから、イルカショーを見ました。カッパを着込んでイルカプールの近くで構えた子どもたちも多かったのですが、写真撮影に立った引率職員が一番ずぶ濡れになったことも思い出になりました。14:30出発まで、ゆっくりたっぷり館内を見学することができました。

全校で一緒にこれまでのがんばりへのご褒美旅行ができました。



入賞おめでとう！

◆ 新潟県書き初め大会 特選 6年 南雲



貝野小の歴史を訪ねて ～その14 「幼らよ」

創立90周年に寄贈された下の書は、地域の皆様もよくご存知のとおり、東京大学総長の南原 繁氏自詠自筆の書を貝野出身の南雲喜作氏が寄贈してくださったものです。

3月10日（水）に、全校道徳として、全校で書の読み方と意味を考えました。

◆幼らよ 汝がたまいをふるひまたし = 幼き子どもたちよ あなたの魂の勇気を出して

◆多くわし久 伸びよ = たくましく 伸びるんだよ

◆国を興すと = 国を発展させる（よい方向に進める）ために 子どもたちに「国を興す＝よい方向に進める」には、何をすれば良いのか尋ねると次のような意見が出ました。

【国を興す＝良い方向に進める とは】

- 日本を平和にする
- 電気を節約する＝エネルギーを無駄にしない
- 菅総理を責めない＝人のせいにならない
- 助け合う
- 政治を良くする
- ゴミのポイ捨てをしない＝環境を守る
- 環境を守る活動に参加する
- 勉強する
- 働く

子どもたちの考えは、なんと素晴らしいことでしょう。「みんなが考えるような、国を興す人になれるよ」と励ましました。

さらに校長の幼少時の経験から、人前で話すのが苦手でも、少しずつ世界を広げながら、自分の意見を伝えることにチャレンジしていこうと語りかけました。

57年間大切に受け継がれてきた貝野っ子魂の根幹となる宝物から学びました。

